

東洋羽毛工業(株)CS 推進室課長	佃 光明 様	
蔭山(株)商品開発・品質管理担当部長	小島 祥栄 様	
日本ふとん製造協同組合専務理事	只野 悟 様	
ダイワボウ・ノイ(株)ライフスタイル部長	巽 哲一 様	
(株)エビス営業部	米山 幸平 様	
(一財) ボーケン品質評価機構開発部課長	坂井 史治 様	
(一社) 日本寝具寝装品協会専務理事	奥谷 孝良	(事務局) 中村 富夫

JBA 第 4 期業種別委員会：第九回ふとん部会 議事次第

1. 開催日時 平成 30 年 3 月 29 日 (木) 13:30~15:30
2. 開催場所 JBA：(一社) 日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所内
東京都中央区日本橋小舟町 7-2 小舟町 243 ビル 7F ☎ 03-6661-0213
3. 議題(1) 評価ラベル表記内容 (保温性) の再検討について
(2) 評価ラベル発行フロー、比較目安表等 の検討

■JBA 認定：ふとん性能ラベル (案)

*表面：シンボルマーク (JBA 認定)

裏面：

JBA 認定登録番号		(株)〇〇〇/D-ABC0000000-C19				
羽毛掛ふとん		低	→	中	→	高
生地	柔らかさ	☆	☆	☆		
“	吸・放湿性	☆	☆	☆	☆	
“	軽さ	☆	☆			
詰めもの	暖かさ	☆	☆	☆	☆	☆
“	吸湿性	☆	☆	☆		

(基準作成機関：一般財団法人ボーケン品質評価機構)

- (3) その他

議事録 議題 (1)

小島委員：保温性＝総体積といえるのか。この論点が日本睡眠環境学会性能評価委員会で討議があった。

坂井委員：製品データの裏付けとして、羽毛 350DP、400DP2 点、合繊掛け 3 点の cro 値測定した結果、総体積に比例していた。

佃部会長：今回は詰めものでの目安なのでよいのではないか。総体積表現がわかりにくくもしている面はある。

小島委員：暖かさ と表現すると消費者目線では理解しやすい。

奥谷専務：暖かさ の表現として、総体積、ふくらみは表現しないこととする。

議題（２） （ラフラベル案をもとに協議）

奥谷専務：下げ札ラベル 表面 JBA 認定ラベルデザインとする。

裏面 認定シリアル番号内には、最終製品責任者名 を明記する。

OEM 製品は企画販売者名 又は 製造責任者名表記を原則とするが、縫込み品質表示ラベル記載表示者欄と整合の為、品質表示者登録番号記入もよしとする。

中村 JBA：認定シリアル番号は、通し個体番号は工場管理が容易でないので、認定登録番号として、1 愛称にサイズ問わず 1 つの認定番号を付与する。

認定番号内には、番号管理上 認定年月を符号記入する。

佃部会長：付け下げ紙ラベル（穴あき A4 クォーターサイズ／横タイプ）は、事前申請でサイズのみ流用を認めるようにしてほしい。

小島委員：QR コードを使用して、生地から詰めものデータや履歴表示が見えるようにする。

奥谷専務：認定番号申請書と公的検査機関での試験データ表をボーケンで内容チェック・★勘定し、JBA 事務局で番号付与・ラベル印刷発行する。

坂井委員：認証機関：ボーケンでは、全ての検査をボーケンがしていないので、基準作成機関：（一財）ボーケン品質評価機構と改めてほしい。
また、添付試験データ（ダウンパワー、カンチレバー、生地目付）のボーケン各試験料金見積りと★数等級自動計算シートを提出します。

奥谷専務：次回部会で、ふとん性能ラベル認定発行フローチャート（各試験料見積りと★数等級自動計算表付）、ふとん性能ラベル、店頭用性能目安マトリックス POP、罰則規定、等提案する。

議題（３）

小島委員：梶井先生のふとん保温性測定器作成の方向性で意見が聞きたい。

現状保温性試験機は環境室内で 6 c m 厚のものまで測定可能で、羽毛ふとんのようになり 3 0 c m 厚になつては同一データしか取りえない。

奥谷専務：ふとん保温性等試験機の歴史過程から判断すれば、使用する寝環境、個人差等様々なので、簡易的で業界で汎用性ある JBA 性能目安ラインでいくのがよい。

佃部会長：cro 値を追いかける学究的開発もあるが、消費者用ふとん購入時のシンプル目安ガイドライン作りもあるという事で、本部会では現状即応の后者であります。

次回部会は 5 月 8 日（火）午後 1 時 30 分～ ラベルの運用 討議を致します。

以上